

「クレーンの収まり」テーマにセミナー
接合方法などで意見交換

建築学会・中国支部、JSCA中国支部、広島県鉄構工業会

部長 清水保雄・アクト建
築設計社長）、広島県鉄構
工業会（理事長 山本泰徳

的に開催したもの。事前準備には広島県鉄構工業会・

田泰実氏（島田鉄工所
社長）、佐藤大氏（ス
テントス製造部課長）

日本建築
学会・中国
支部の鋼構
造研究小委
員会（委員
長 田川浩
・広島大学
大学院工学
研究科教
授）と日本
建築構造技
術者協会
（略称・J
SCA）中
国支部（支
部長 清水保雄・アクト建
築設計社長）、広島県鉄構
工業会（理事長 山本泰徳

備には広島県鉄構工業会・
青年部が参画し、JSCA
中国支部技術委員会とも
に提案作成に携わった。
冒頭、田川委員長は「セ
ミナーでは製作者が経験に
基づいた提案を示すが、
会場の方も自分の意見
を述べてほしい」とあ
いさつした。

が講師を務めた。
クレーンガーターの接合
方法としては①ガーター同
士②クレーンガーターとブ
ラケット③クレーンガータ
ーと間柱——について施工



構造設計者やファブら80人が参加

設計図をもとにそれぞれの
品質やコスト、工期などに
ついて意見を交わした。ま
た、クレーンガーターと組
み立て柱の接合では①接合
部の形状②上下の柱位置③
スチフナーの位置④ブレイ
スの位置——などの注意点
について質疑を行った。こ
のほか、ラチス材の接合方
法についても確認した。
総括として清水保雄JS
CA中国支部長は、「設計
の段階で設計者と鉄工所が
話し合うことが望ましい。
セミナーが今後の設計の参
考になることを願う」と締
めくくった。